作成日　2001/11/16
改訂日　2026/06/01

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	オルソフタル酸
供給者の会社名称	エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社
住所	神奈川県川崎市川崎区千鳥町1番2号
担当部門	RC推進部
電話番号	044-266-6351
緊急連絡電話番号	上記担当部門
推奨用途	工業用一般
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康有害性
皮膚腐食性／刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2A
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語　警告

危険有害性情報
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激

注意書き

安全対策
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
特別な処置が必要である。(P321)
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)

保管　情報なし
廃棄　情報なし

他の危険有害性　粉体（無水物)の状態で加熱すると可燃性となり、爆発の危険性がある。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要　情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　化学物質
化学名又は一般名　O-フタル酸

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
オルソフタル酸	99.0 %以上	$C_8H_6O_4$	(3)-1337	既存	88-99-3

分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 特別な処置が必要である。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、粉末・泡消火剤、不活性ガス 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 消火栓等を用い、多量の水 (水噴霧)を使用することが効果的である。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	粉末の場合は、電気掃除機(真空クリーナー)、ほうきなどを使用して回収する。 粉塵が飛散しないようにして取り除く。 微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

		取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	安全取扱注意事項	可燃性のある固体なので、取扱い場所周辺の火気使用を厳禁する。 粉じんの飛散に注意し、静電気の帯電防止を講ずる。 火花を発生しない道具を使用する。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 保護眼鏡、保護面を着用すること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器は密閉し、換気の良い冷暗所に施錠して保管する。 包装材料の破損、水濡れに注意する。
	安全な容器包装材料	法令に則った容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
オルソフタル酸	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
オルソフタル酸	未設定	未設定

設備対策		蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
保護具	呼吸用保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。
	手の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。
	眼、顔面の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。
特別な注意事項		情報なし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態		固体
形状		粉体
色		白色
臭い		特徴的な臭気
融点／凝固点		230 ℃(分解) (191 ℃封管中)
沸点又は初留点及び沸点範囲		分解
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
	下限	1.3 vol% (推定値)
	上限	7.7 vol% (推定値)
引火点		168 ℃ (密閉式)
自然発火点		データなし
分解温度		230 ℃、無水フタル酸と水に分解
pH		データなし
動粘性率		データなし

溶解度		水 0.62 g/100 ml （25 ℃） エーテルに難溶 メタノール、エタノールに可溶
n-オクタノール／水分配係数		Log Pow = 0.73
蒸気圧		6.36×10^{-7} mmHg(25 ℃)
密度及び／又は相対密度		1.585 g/ml
相対ガス密度		5.7
粒子特性		データなし
その他のデータ	燃焼熱量	19.4 kJ/g
	粉じん爆発性	最小着火エネルギー 300 mJ < E 下限粉じん濃度 110 g/m^3

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の取扱い及び保管条件では安定である。
危険有害反応可能性	粉末又は顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発を起す可能性がある。 水の存在下で、多くの金属を侵す。 亜硝酸ナトリウムと熱すると激しく爆発する危険性がある。
避けるべき条件	粉末や顆粒状で空気と混合。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などを生成する。
その他のデータ	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	LD_{50}＝2,530 mg/kg (マウス)
	経皮	データなし
	吸入	データなし
	参考情報	腹腔内注射 LD_{50}＝550 mg/kg(マウス)
皮膚腐食性／皮膚刺激性		皮膚に対して軽度の刺激性がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		眼に対して刺激性がある。
呼吸器感作性		データなし
皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない 参考情報 dlt-mus-ipr 200 mg/kg/5D-C spm-mus-ipr 100 mg/kg
発がん性		データなし
生殖毒性		データ不足のため分類できない 参考情報 経口 TDLo = 29,810 mg/kg (7-16 day pregnant) (ラット)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データなし
誤えん有害性		データなし
その他のデータ		情報なし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に該当しない
その他のデータ	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	非該当
	Marine Pollutant	Not applicable
	Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex Ⅱ, the IBC Code	Not applicable
	航空規制情報	非該当
国内規制	陸上規制	非該当
	海上規制情報	非該当
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
	航空規制情報	非該当
特別の安全対策		輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号		なし

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	非該当

16. その他の情報

参考文献	社内資料 RTECS
その他	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。 本安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に基づき作成しています。